

e ラーニングコンテンツ作成の試みとそれらが目指すもの

e ラーニングが補完すべきものは何か？

○伊藤勝昭 宮崎大・獣医薬理

今回、獣医学に導入しようとしている e ラーニングは各大学に設置したサーバーに学生がアクセスして自学自習するシステムであり、教材、試験問題（ドリル）、学習管理システム（LMS、これは教員のみがアクセス）から構成される。そのコンテンツは目下とりまとめ作業中のコア・カリキュラムに準拠する。重要なことは e ラーニングで現行の獣医学教育をどう充実させるのか、どういう欠陥を補うのかという視点を明確にして作成することで、それを見失うとシステムを構築しても有効活用されないであろう。

現在の教育の問題点 1) 現在の講義（座学）のほとんどは教員→学生という一方向のやり方であり、学生は暗記に重点を置いた学習をするため応用能力が育たず、考える力（論理的思考力）が弱い。これは学生の勉強が試験対策偏重のためである。当面の定期試験はそれでクリアできるが、実習のときには覚えたことをほとんど忘れており、学んだことが定着していない。2) 教員の口述、板書をノートに書き取る、という旧来の授業方式は時間の無駄が多く、伝える情報量が少ない。ノートを取ることに必死な学生は考えながら講義を聞いていない。3) 予習をしておくで講義を理解しやすくなるが、教科書を読むのに時間がかかりすぎる（特に教科書が分厚いとき）と学生は予習をしない。4) 基礎獣医学の場合、受講時期と臨床の授業の時期が離れているため学んだことを実践に結びつけにくい。

e ラーニングの目的 「教わる」から「自ら学ぶ」への転換。

e ラーニングの設計 学生が e ラーニングを予習のために使うか、復習のために使うかで内容が若干異なるが、この両方の側面を備えるべきであろう。予習用の e ラーニングは次の講義でのポイント、キーワードを簡単に説明する。それだけを事前に頭にインプットするだけで講義の理解度は格段に上がる。復習のための e ラーニングは講義での重要事項を反芻、深化し、学んだことが正しいか小テストで確かめるようにする。いずれも 1 回にかかる学習時間は 15 分位（テストを含めると 20 分）が適当であろう。教員は LMS で修学状況をチェックして、それに応じて教授方法を変えたり、学生への個別指導を行う。